



「R6 全国学力・学習状況調査」分析結果

富岡市立富岡中学校 学力向上班

本年度の『全国学力・学習状況調査』結果から、本校の達成状況は、国語、数学の両教科において全国、群馬県の平均正答率を上回ることができ、たいへん良好な結果が得られました。現在、分析した成果や課題を教職員で共有し、課題解決に努めるとともに、ICTを活用した授業改善に努め、引き続き学力向上に取り組んでいます。

I. 生徒の学びの実態

【国語】

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">○話し合いの中の発言の説明で適切なものを選んだり、指し示している資料を選んだりすることができている。○目的や意図に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすることができている。○文章中の主張と例示との関係を読み取ることができている。	<ul style="list-style-type: none">●話し合いの話題や発言を踏まえて自分の考えを書く問題の正答率が36.6%と低い。●文の成分の順序や照応についての理解や文脈に即して漢字を書く問題は、両方とも県と比べ、正答率が低い。

【数学】

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">○事柄が成り立つ理由を説明する問題では、全国・県と比較し8ポイント以上高い。○式とグラフを関連付けて理解することに関しては、全国・県と比較して、正答率が約5ポイント高い。○箱ひげ図の四分位範囲の問題の正答率は、全国・県と比較して正答率が8ポイント以上高い。	<ul style="list-style-type: none">●簡単な計算でも、問題場面の設定を変えた問題では、全国・県と比較して1ポイント程度正答率が低い。●傾きが表すものの意味を答える問題の正答率は、全国・県よりも低く、無回答率も県よりも高い。●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題は、全国・県と比較すれば正答率は高いが、32.1%と数値は低い。

II. 指導改善のポイント

【国語】

- ・話し合いの内容や提示されている資料を読み取る力はあると考えられる。しかし、それを踏まえて自分の考えを書くところで大きく正答率が下がっているため、内容や発言をまとめるだけでなく、そこから自分の考えを書くような学習を取り入れていく。
- ・県や全国平均と比べると正答率が高いが、表現を工夫して文章を書き、表現の効果を説明する問題の正答率が半分程度である。普段から、文章を思いっぴくまに書くだけでなく、相手に伝わるにはどうすればよいか、表現の工夫などを考えさせていくことが大切である。
- ・短歌に用いられる表現技法についての正答率は県や全国の正答率と比べると高かった。一方で、文の成分といった文法事項や漢字の書き取りの正答率が低かった。漢字は、書いて覚えていくことが大切だと考えているので、文章を書く際にはこれまでに学習した漢字を積極的に使っていくよう指導していく。また、文法についても、学習した時だけでなく定期的に練習問題等で確認が出来るようにしていく。

【数学】

- ・数と式の学習においても、継続して説明する活動を多く取り入れていく。今後はさらに、ただ計算問題を提示するのではなく、工夫した問題場面を導入で提示するなどして、生徒が問題場面について考える学習を多く取り入れていく。
- ・表・式・グラフを関連付けながら関数を捉えられるよう、今後も継続して授業を計画していく。その中で、傾きの意味については、第1学年の比例の段階から意味を捉えられるよう指導し、1次関数へとつなげられるようにしていく。
- ・基本的な用語等は丁寧におさえながら、データを比較したり、読み取ったり、データを使って自分の考えを数学的な表現を用いて説明したりするなどの課題設定を増やしていく。

IV. 生徒質問紙より

- ・他の生徒の考えを尊重して協力しながら授業に取り組む生徒が全国よりも7.2%多い。
→生徒の考えを積極的に取り入れ、意見交流を中心に知識を発展させる授業につなげていく。
- ・ICTを使った授業を受けていると感じている生徒が全国よりも18.8%多い。
→さらなるICT活用の研究を通して、主体的・対話的で深い学びに繋がる授業づくりを継続する。
- ・資料や話し方を工夫して発表しようとしている生徒の割合が全国より11.8%高い。
→プレゼンテーション活動やまとめの発表などを定期的に行い、生徒が自信をもって発表できるようにする。